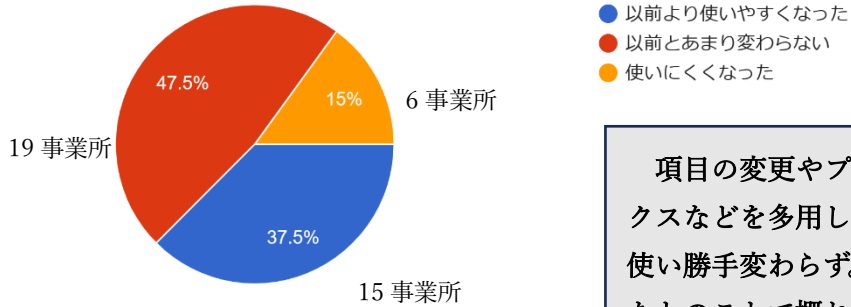


## R5 年 利根沼田圏域退院調整ルール アンケート集計結果概要

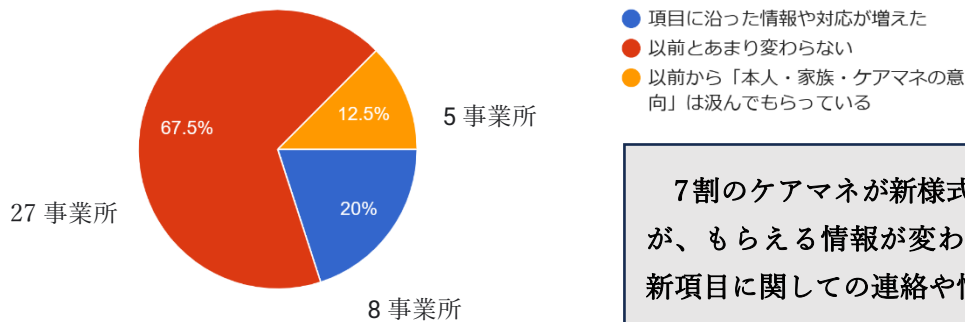
皆様のご協力のもと R5 年 12 月 1 日～12 月 27 日の期間に行ったアンケート結果概要と、事業所訪問や電話での地域状況調査の内容も踏まえて報告いたします。地域の現状や同業者の声が多く表出された興味深い結果となりましたのでご確認ください。

### ●「入院時情報提供書」新様式の使い勝手は？



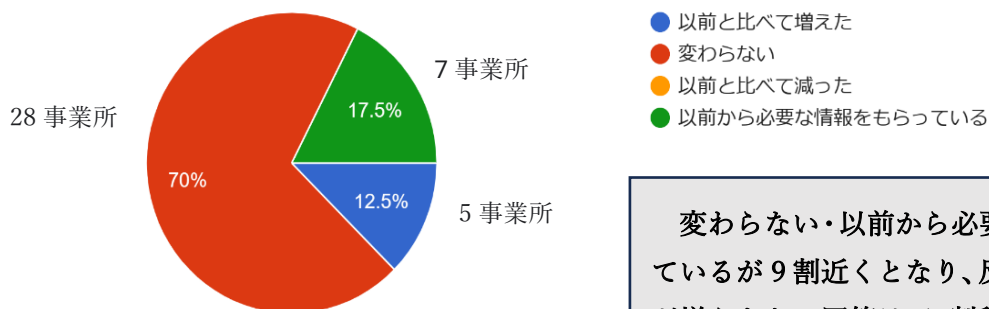
項目の変更やプルダウン・チェックボックスなどを多用した作りにしたが、半数は使い勝手変わらず。4 割が使いやすくなったとのことで概ね評価は良好な印象。

### ●新様式内、「本人・家族の退院への意向」「ケアマネの意向」等に対して、医療機関側の反応や対応は？



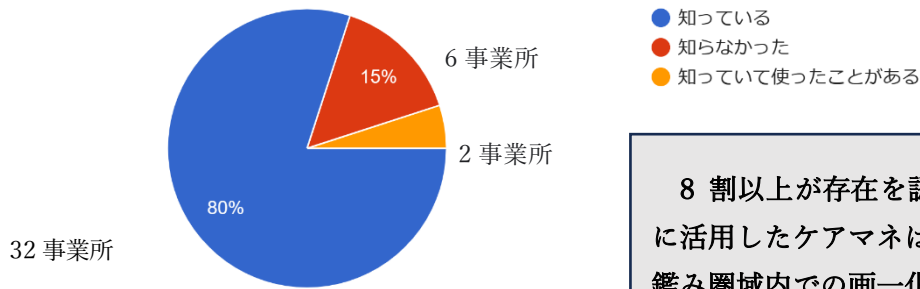
7 割のケアマネが新様式で情報提供したが、もらえる情報が変わらないと回答。新項目に関しての連絡や情報提供は 2 割にとどまった。

### ●「退院時情報提供」は、以前と比べてケアプランに反映できる内容が増えましたか？



変わらない・以前から必要な情報を貰っているが 9 割近くとなり、反映できる内容が増えたとの回答は 1 割程度にとどまった。情報の内容は、様式の問題ではないのか等、医療機関への情報内容精査必要か。

## ●「救急医療情報キット」を知っていますか？



8割以上が存在を認知しており、実際に活用したケアマネは2例。この結果を鑑み圏域内での画一化が急務と考える。

## ●退院調整ルールのメンテナンスについての意見

### 【良かったこと】

- 『退院調整ルール』により医療との連携が図りやすくなっている(5 事業所)
- 入院時情報提供を提出すると、各医療機関から看護サマリ・リハビリ実施計画など、必要な情報がきちんともらえるようになった
- 退院時カンファレンスを開催してもらおうと情報が細かく聞けて良かった(6 事業所)
- 退院時の家屋訪問では、専門職と連携がはかれ調整がスムーズに行えた(4 事業所)
- 相談員より退院の連絡や本人の状況を伝えてくれる(6 事業所)

### 【困ったことや改善点、気づきなど】

- 入院時情報提供表の特記欄が少ない
- 退院時は看護サマリが多く、必要な情報の記載は少ないと思う。また専門用語が多く理解が難しい
- 状態把握のため病院へ訪問したいが、訪問できない医療機関もある
- 入院時情報提供書を今までは介護ソフトから作成していたが、様式の変更で Excel にて作ることで、システム内に情報取り込みが出来ないので事務処理の省略が行えなくて負担
- 入院時情報提供を早めに提出するために、必要最低限な情報に限定し、後日詳細の情報を提供するなどした方が良くもしい
- 病院から家屋訪問に声がかからず、病院側が先に家屋訪問を行っていて、連携の足並みが揃わなかったことがあり、多職種との綿密な連絡のやり取りが必要
- 入院時情報提供書は厚生労働省の様式であれば介護ソフトからシステムにいけるのでやりやすい。
- 情報のやり取りは FAX が主なので色がついていたりすると使いづらい

退院調整ルールが使われるようになり、以前と比べ医療機関と介護支援専門員による情報共有や連携は図りやすくなったとの評価が多い。しかし、感染症対策による面会制限や、医療機関からの情報提供内容についての困りごとが、複数回の内容見直しを経ても変わらず介護支援専門員より意見が出されているので、今後に向けて大きな課題である。また、個々の法人のシステムやプログラム、次年度に実施予定の制度改正における「内容変更」の検討も必要であり、関係者全体が今後のルール内容をどのようにしていくのか協議・検討が必要と考える。

## 【要望】

- 退院前のケアカンファは必ず行ってほしい
- 病院から退院間近で連絡や看護サマリを提供されるため、ケアプランに情報が反映されにくい
- ケアマネが提供している情報が、病院側にとって必要な情報なのか知りたい

## 実態把握聞き取り調査とアンケート自由記述から抽出した地域課題

- 高齢者と介助者が一緒に買い物や病院受診ができる支援(8 事業所)
- 移送サービスが少ない(7 事業所)
- 「独居・高齢者 2 人暮らしの方」に対しての金銭的管理支援(お金の出金等も含め)を使えるようにできないか(3 事業所)
- 訪問系サービス(介護・看護・入浴)の不足、短期入所生活介護も同様(3 事業所)
- 障害サービスにあるように 24 時間ヘルパー利用や夜間巡回サービスが、行政サービスで使えないか(2 事業所)
- 利根町のデイ閉鎖で、周辺住民からの喪失感や不安の声が多く聴かれている。近隣で通えるサービスや配食サービスなど検討してほしい(2 事業所)
- 市町村の配食サービスを、回数制限なく使えるように(2 事業所)
- ペットを預かってくれるサービス(2 事業所)
- 病院が苦手な人(認知症の方など)も多いので往診医を増やしてほしい
- 利根沼田のヘルパー・住宅型定型プラン・有償運送の使い勝手が悪い
- 人材不足による資源の不足が深刻
- 在宅看取りなどの支援体制整備
- 買い物に出かける足でデマンドバスがあるが、呼ぶなどの手配が高齢者に難しいので、もう少し簡単に利用できる内容に変更または違う制度の策定を
- BCP を作成して、民生委員の方との繋がり必要性を感じている
- 自宅へ訪問してくれる理髪サービス
- 独居・認知症の方の徘徊予防の GPS 貸し出しなど
- セルフケアの充実(例:リハビリメイク・フィッティングシューズなどの自立支援サービス)
- 除雪サービス
- 入浴だけのサービス
- 高齢者の集いの場があるといい
- 夜間移送サービス(救急車などで搬送先から戻る用途など)

高齢者の買物・受診の移送支援がサービスとして不足しているとの意見が多く、次いで人材不足や既存のサービスの枠などが不足しているといった意見が大半を占めている。

公的資金を導入しすでに行政が行っている支援もあるが、規模や利用制限もあり支援としては万全とは言えないため、回数制限の撤廃や利用範囲の拡大といった声が挙がっている。

アンケート結果は行政等と共有するが、実現できるかは地域の関係者の声の大きさや、対象者の人数に左右されるため、実現に結びつけるソーシャルアクションを行う必要性を強く感じる。